

九戸郡洋野町

にし ひら ない
西 平 内 I 遺 跡

— 配石遺構と整地された広場 —

縄文時代後期前葉（今から約 4,000 年前）

平成 26 年 8 月 8 日（金）11:00～



(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

はじめに

西平内Ⅰ遺跡は、青森県境にほど近い洋野町北部、種市地区の渋谷川沿いにある縄文時代の遺跡です。周辺には、洋野町教育委員会によって調査された平内Ⅱ遺跡があり、そこからは縄文時代の狩り場跡が確認されています。

今回の発掘調査は、三陸沿岸道路建設事業で新しい道路がつくられることから、遺跡の一部を記録保存する目的で実施しています。

1. ^{はいせきいこう}配石遺構（運び込まれた石の集合体）

下の写真は、10個あまりの石からつくられている2つの配石遺構で、いずれも配石の下には楕円形の掘り込みがあります。これは「配石墓」と呼ばれる縄文時代後期前葉に特徴的なお墓の形態のひとつです。今回の調査で見つかったこれらの石は、縄文人が付近の川原などから運び込んだものと考えられ、その数は全体で700個を数えます。最も大きな石は細長い花崗岩で、長さは1.2mほどありました。地面に立てて墓標にしていたのでしょうか。

石の集合体としての配石遺構は50基ほど確認していますが、すべてがお墓であるかはこれから調査を進め判断したいと思います。これらの配石遺構群は、渋谷川によって区切られる調査区の西側を除く、南向きの緩斜面に弧状に広がり、道路予定地の路線幅両側に延びています。



2基の配石墓

2. 整地された広場（縄文時代の土地造成）とその下の石列

表土を取り除くと本来土の下位に見られる黄色い土の層が現れ、配石遺構群に囲まれるように広がっていました。層の厚さは5～30cmほどで、斜面部ほど厚く堆積しています。広く平らな場所（広場）が必要となった人々は、黄色い土を大量に運び込み、土地の造成（整地）を行ったようです。さらに調査を進めると、この層の下にも黒い土からなる整地層が存在することがわかりました。部分的にこの2枚の整地層を除去したところ、配石遺構群の15mほど内側に同心円状の新たな石列が見つかりました。この事実と斜面部に厚く施される整地土の堆積状況から、黄色い土の整地工事は、外側の弧状に広がる配石遺構全体を覆う規模で行われた可能性が出てきました。

配石遺構群を有する本遺跡は、祭祀や儀礼に関する場所として利用されたと考えられますが、「配石遺構全体を整地層で被覆した」事例はこれまで報告されたことがありません。祭祀関連の遺跡は、北日本に多く存在しますが、西平内I遺跡もそのひとつに数えられることになるでしょう。

- ① 南斜面の配石遺構群は想定通り弧状を描くのか
- ② 整地層下の新たな石列の内容はどのようなものか
- ③ 整地層で配石遺構群全域を覆う意味合いは何か、が現在の課題です。



2枚の整地層下から現れた石列



整地層（上が黄色土で下は黒色土）



← 斜面部に厚い整地土（黄色土のみ）

3. 出土遺物しゅつどいぶつ（祭りに関係する遺物）

今回の調査で出土した遺物は、当センターの中コンテナ（容量 28 リットル）で 10 箱ほどです。土器の時期は、縄文時代後期初頭から前葉のものがほとんどで、本遺跡がごく限られた時期に存在していたことがわかります。全体として小さく壊れた破片が多く出土し、完形品はほとんどありません。石器は石皿、磨石、磨製石斧などの礫石器、剥片石器では石鏃が目につきます。通常の集落遺跡に比べ、狩猟・採集に関わる遺物の出土が多いようです。

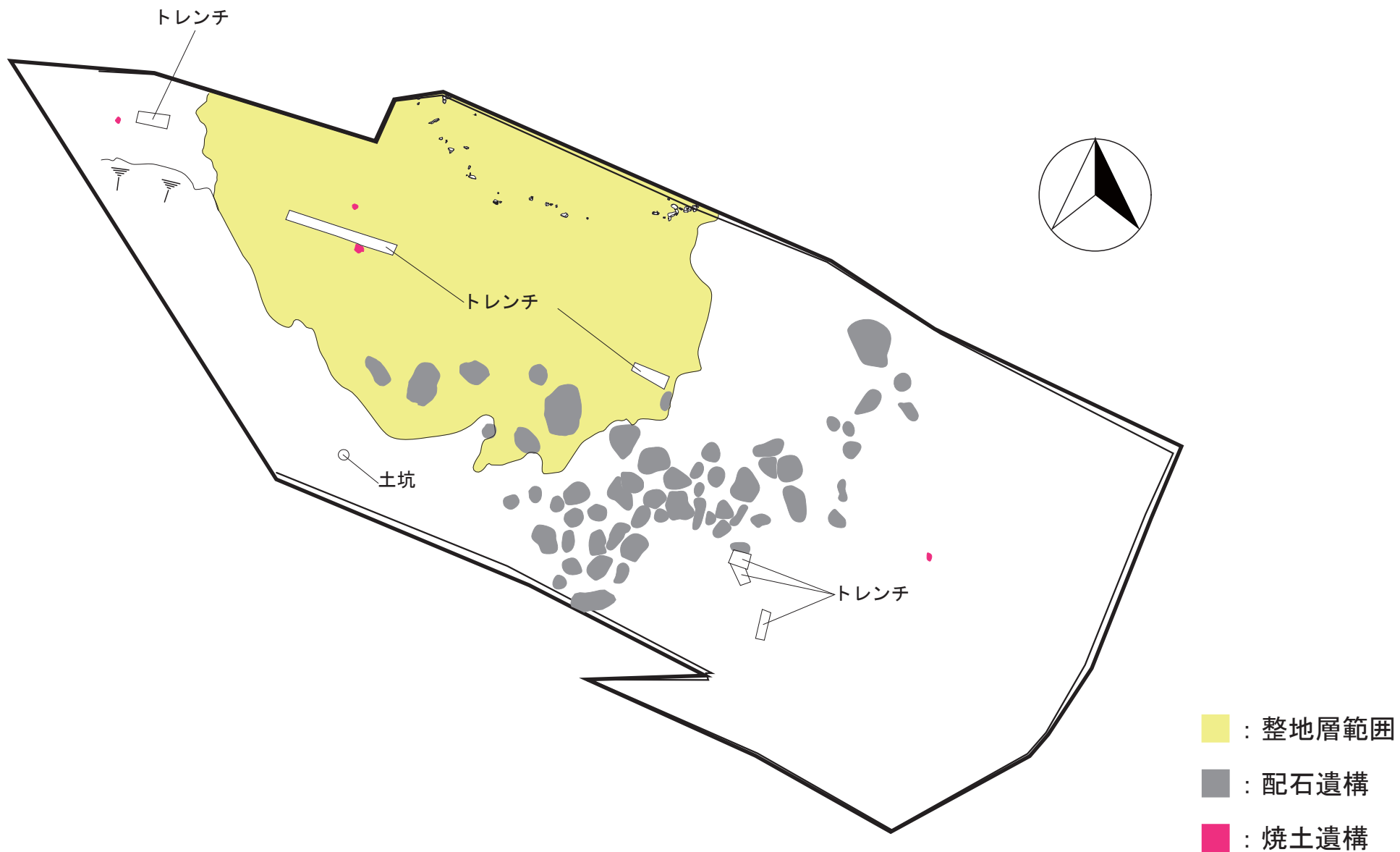
この他には、直径 3～4cm ほどの石や割れた土器片を加工した円盤状の製品、ミニチュア土器、鐸形土製品たぐがたと呼ばれる小さな鈴の形をしたもの、石刀・石剣の破片など祭祀用と言われる遺物が多く出土しています。今のところ、土偶や岩偶、土版、動物形土製品などは見つかっていません。

おわりに

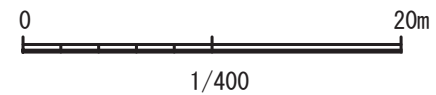
野外調査はもう少し続く予定ですが、終了後は遺構・遺物の整理作業を行います。今回得られる野外調査での成果を生かし、北東北を中心とした県内外の祭祀関連遺跡との比較検討から、縄文時代に生きた人々の精神文化の一端に迫りたいと思います。



南斜面の配石遺構群



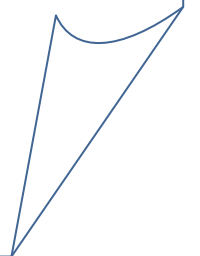
西平内 I 遺跡 遺構配置図



岩手県の遺跡略年表

年代	時期区分	遺物	主な事柄	主な調査遺跡	主な国・県指定遺跡		
BC10000年	旧石器時代		大型動物が生息する	遠野市宮守町金取遺跡 奥州市胆沢区上萩森遺跡 西和賀町(旧湯田町)大台野遺跡 久慈市山形町早坂平遺跡			
8000年	縄文時代	石器・木器・骨角器	縄創期	気候が温暖になる 土器の使用が始まる	岩泉町竜泉新洞遺跡 盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡		
4000年			早期	大規模なムラができる な利用が始まる	漆の本格的	住田町蛇王洞穴遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡	(県)大船渡市関谷洞窟 (国)遠野市綾織新田遺跡 (国)宮古市崎山貝塚
3000年			前期			山田町沢田Ⅰ遺跡 紫波町西田遺跡	(国)一戸町御所野遺跡
2000年			中期	土器	花巻市大迫町観音堂遺跡・立石遺跡		
1000年			後期	器	西平内Ⅰ遺跡 盛岡市萩内遺跡	(国)北上市八天遺跡 (県)滝沢市湯舟沢遺跡 (県)田野畑村立石野遺跡	
300年	弥生時代	弥生土器	晩期	亀ヶ岡文化が広がる	大船渡市上鷹生遺跡 北上市九年橋遺跡		
AD300年			稲作が始まり、金属器が使用される 卑弥呼が邪馬台国国王となる	大船渡市上甲子遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢村湯舟沢遺跡 奥州市水沢区常盤広町遺跡 盛岡市永福寺山遺跡	(国)大船渡市大洞貝塚		
400年	古墳時代	土師器	大和朝廷が国家統一を進める 古墳が各地につくられる	奥州市水沢区高山遺跡	(国)奥州市胆沢区角塚古墳		
600年			仏教が伝わる 聖徳太子が摂政となる 大化改新がおこる	奥州市水沢区中半入遺跡 北上市猫谷地遺跡 奥州市水沢区膳性遺跡 花巻市熊堂古墳	(県)矢巾町藤沢蝦夷森古墳 (国)北上市江釣子古墳群 (県)岩手町浮島古墳群		
800年			奈良時代に都がつくられる	宮古市長根Ⅰ遺跡			
1000年	平安時代	木・須恵器・金	京都に都がつくられる 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	奥州市水沢区胆沢城跡 盛岡市志波城跡 矢巾町徳丹城跡	(国)奥州市水沢区胆沢城跡 (国)盛岡市志波城跡 (国)矢巾町徳丹城跡		
1200年			鎌倉幕府ができる	前九年・後三年の役がおこる 平泉藤原氏滅亡する	軽米町皂角子久保Ⅵ遺跡 二戸市浄法寺町飛鳥台地Ⅰ遺跡 平泉町柳之御所遺跡 接待館遺跡	(国)奥州市衣川区長者ヶ原原寺跡 (国)一関市骨寺村荘園遺跡	
1400年	鎌倉時代	属	文永・弘安の役おこる	盛岡市繫Ⅲ遺跡			
1600年	室町時代	陶器	室町幕府ができる 応仁の乱おこる	花巻市笹間館跡 一戸町一戸城跡 紫波町柳田館跡 久慈市久慈城跡 遠野市篠館跡			
1800年	安土桃山時代	磁器	秀吉全国統一する		(国)二戸市九戸城跡 (国)盛岡市盛岡城跡		
	江戸時代	器	江戸幕府ができる 鎖国が始まる	奥州市衣川区北館跡 紫波町栗田Ⅲ遺跡	(国)北上市・金ヶ崎町南部領伊達領境塚 (国)釜石市橋野高炉跡		
			開国が行われる	遠野市佐比内鉄鉱山跡	(県)釜石市栗林銭座跡		
	近・現代		明治維新		(国)奥州市水沢区高野長英旧宅		

M E M O





遺跡名	西平内 I（にしひらないいち）遺跡
所在地	九戸郡洋野町種市第 37 地割地内
委託者	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
事業名	三陸沿岸道路（久慈道路）
調査期間	平成 26 年 6 月 2 日～
調査面積	2,250 m ²
調査担当	濱田 宏・宮内勝巳・藤田崇志